

15分で学ぶ！
障がい者支援の基礎
～精神障がいとは～

第一回
「精神障がいの概要」

精神障がいとは

1. よく使われる類義語

「精神障がい」≡「精神疾患」≡「心の病」

2. 世間的に使用される表現

- ・「こころに傷を負った」、
 - ・「心の病」、
 - ・「心のケア」
- などの表現・・・。

“こころ”とは何なのか？

こころとは？① “ **オズの魔法使い** ” から

「**知 情 意（知性、思い遣り、意志）**」
3つをまとめバランスを取る「**自分らしさ**」



イラスト引用
『 Studio ROBIN 』

参考：石川県立大学 矢野喜夫 教授
中部学院大学大学院 吉川武彦 教授

“こころ”とは②

精神医学、心理学では

こころとは“ 脳 ”？

- 何かを感じたり考えたりするのは“脳”。
- ストレス等がかかると、脳の神経伝達物質等に変化が生じる。
- 脳は身体全体の機能をコントロールしているので、心の変調をきたすと、思考や感情に加えて身体にも様々な不調が生じる。

**“こころ”の全容を
“脳”だけで説明できるか？**

“こころ”とは②

精神医学、心理学では

こころとは“ 脳 ”？

- 何かを感じたり考えたりするのは“脳”。
- ストレス等がかかると、脳の神経伝達物質等に変化が生じる。
- 脳は身体全体の機能をコントロールしているので、心の変調をきたすと、思考や感情に加えて身体にも様々な不調が生じる。

**“こころ”の全容を
“脳”だけで説明できるか？**

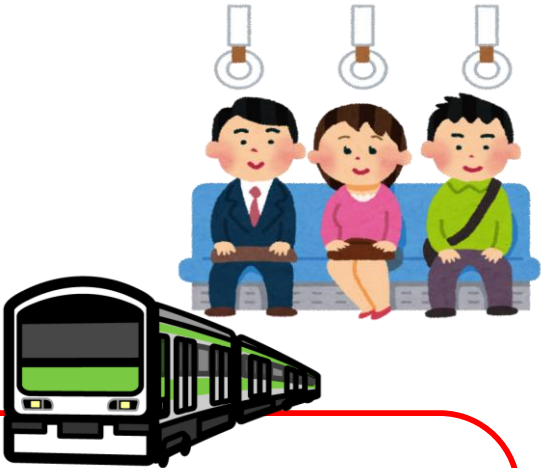
想像してください・・・。

あなたが電車に乗ると、誰も乗っていませんでした。

あなたは、車両の一番端に座りました。

次の駅、一人の中年男性が、乗車しました。

ガラガラの席にも関わらず、あなたの真横に座りました。



どのような気分になりましたか？

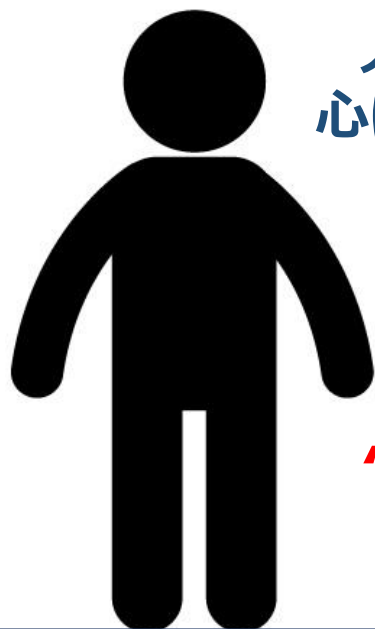
そのような気分になった理由は
何でしょうか？

自分や相手との関係性を考えている。

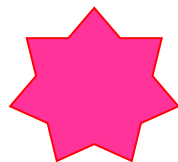
空間との関係も考えている。

時間や状況との関係も考えている。

こころとは？ 体の中にはない！



人と人が触れ合う時
心は初めてその人たちの
間に生まれる



“心が広い、狭い”
の表現



物ごとを判断し、感情、考え、行動を作り上げるのは、確かに“脳”。
しかし、その“脳”の判断は、これまでの経験、価値、知識や人間関係
の総体として導き出される。

人々にとって健康とは

【みんなの考える健康】



【世界保健機構(WHO)の健康の定義】

「健康とは、完全に、**身体**、**精神**、及び**社会的**に良い
(安寧な) 状態であることを意味し、単に病気でない
とか、虚弱でないということではない。」

この数字は何だろう？

24.2%

心の病は生涯を通じて、
約 4 人に 1 人になる。

異変に気づいてから
専門機関に行くまでの期間

平均 17.6 カ月

身体の病気より
病院に行くのが遅い！

引用：平成18年度「こころの健康についての疫学調査に関する研究」分担報告書 2

精神疾患は特殊ではない、身近な病気

厚労省 「患者数が多く、国を挙げて緊急に対策を講じる必要がある」
「それぞれの事例に対してきめ細やかな対応が必要とされる病気」
→各都道府県は、診療の中核となる医療機関の整備を進めたり、
疾病の早期発見、早期治療、予防策などの医療計画を具体化してきた。

	4 大疾病	2008年の患者数
①	がん	152万人
②	脳卒中	134万人（脳血管疾患）
③	心疾患	81万人
④	糖尿病	237万人
⑤	精神疾患	323万人※自殺者3万人

2011年
医療法改正で
“精神疾患”が
盛り込まれる。

精神障がいとは

様々な原因により、精神の正常な働きが障がいされ、そのためにいろいろな精神症状や行動の異常が出現したり、本人が苦痛を覚える場合を総称して言う言葉である。精神活動は脳の働きによって保たれているので、脳の構造的、機能的障がいがおこると、その結果として精神障がいが出現する。

先天性	自閉性障がいなど
内因性	遺伝や体質などが関係 ⇒ 環境的要因も関係して引き起こされる (統合失調症、双極性感情障がいなど)
外因性	脳への物理的ダメージが加えられ、ホルモン系統のバランスが崩れてなるもの ・症候性精神障がい (内分泌障がいなどの内臓疾患による) ・中毒性精神障がい (薬物、アルコール依存症など) ・器質性精神障がい (脳炎後遺症や脳外傷後後遺症)
心因性	性格の偏りや精神的ストレスが原因と考えられる精神疾患 (心身症、神経症など) ⇒ 環境的要素も大きい

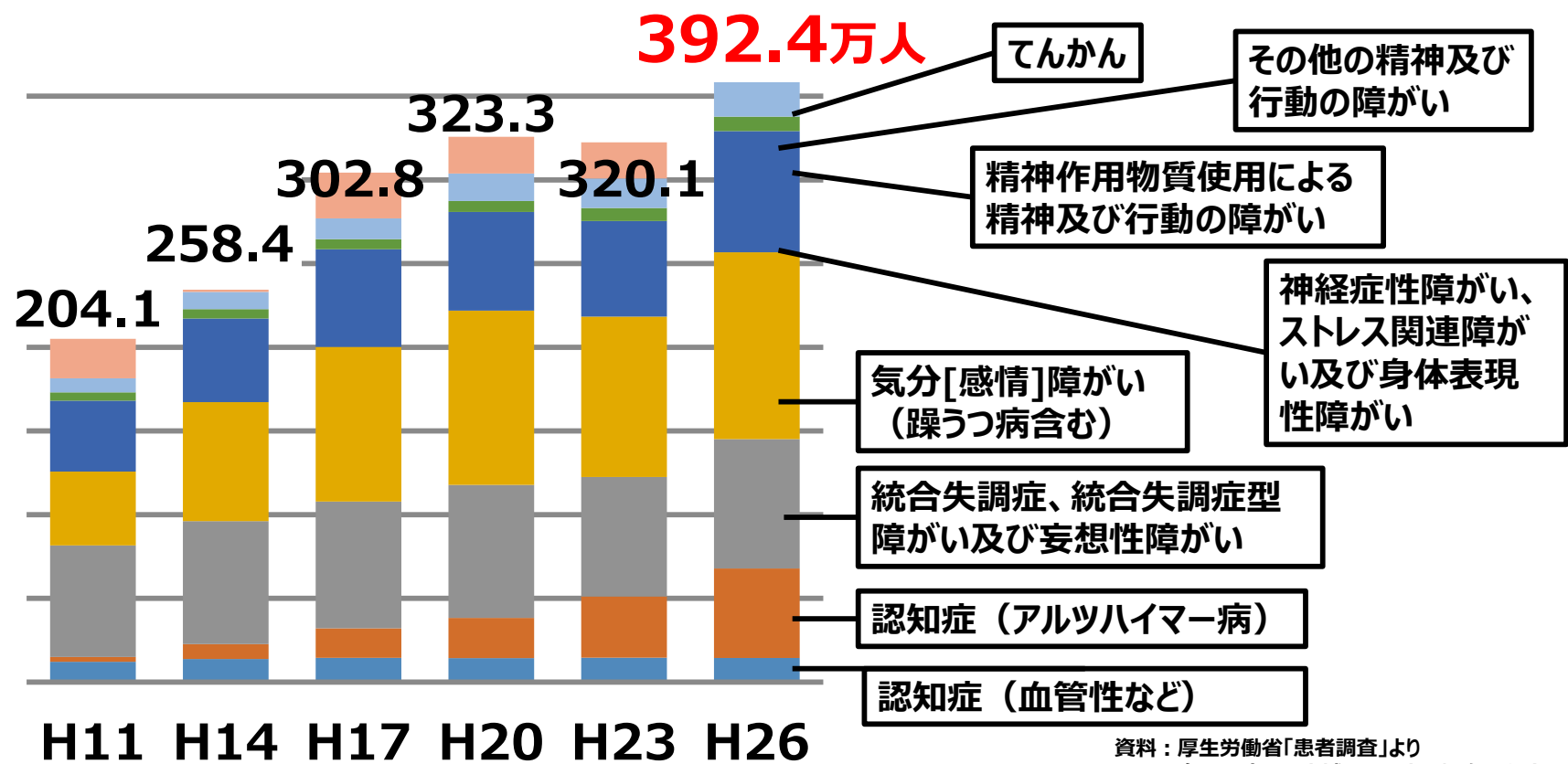
＊ 性格、成育環境、現在置かれている環境、遺伝など、様々な要因が関係。

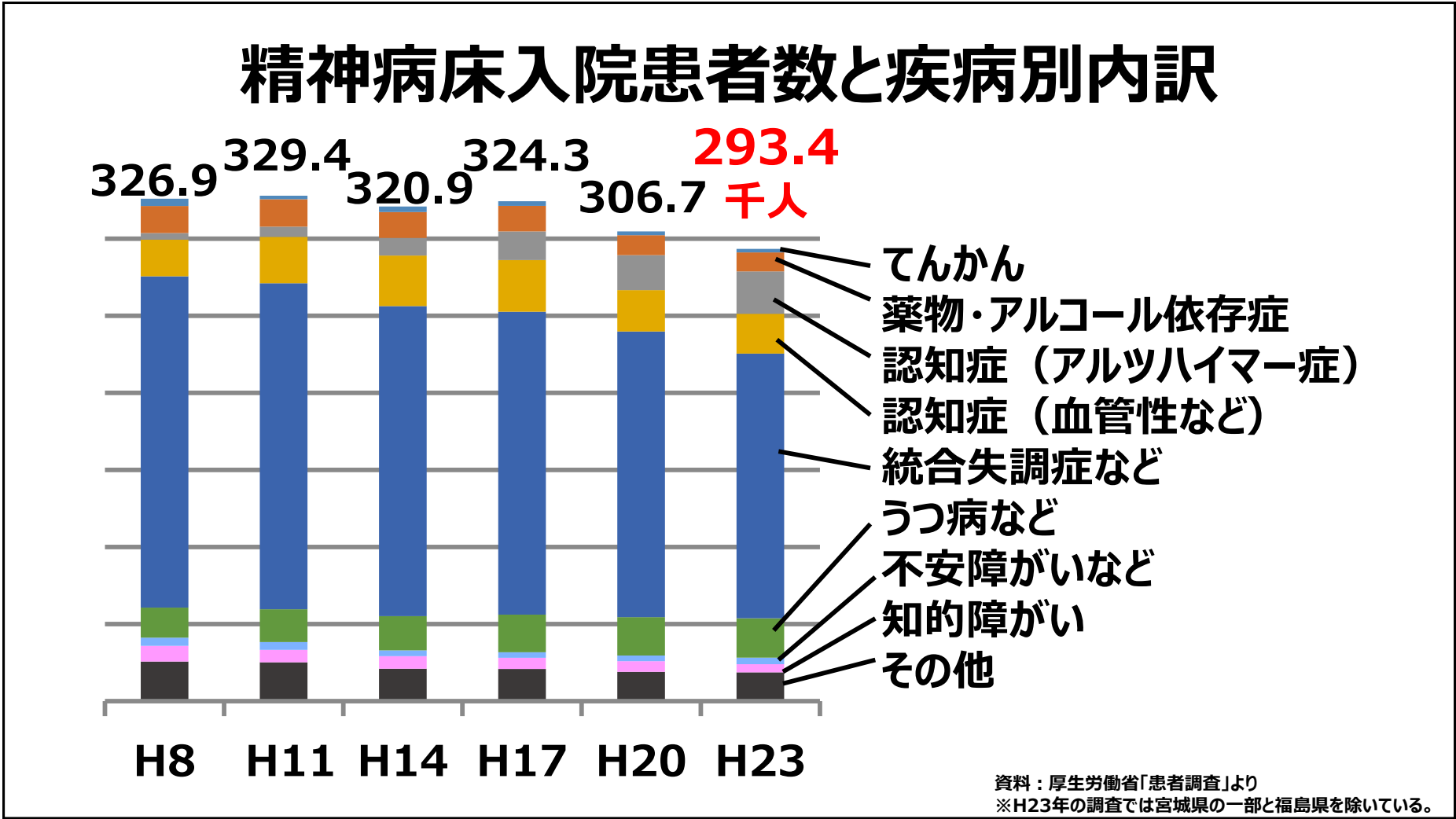
引用：『大辞林 第三版』、『日本大百科全書』

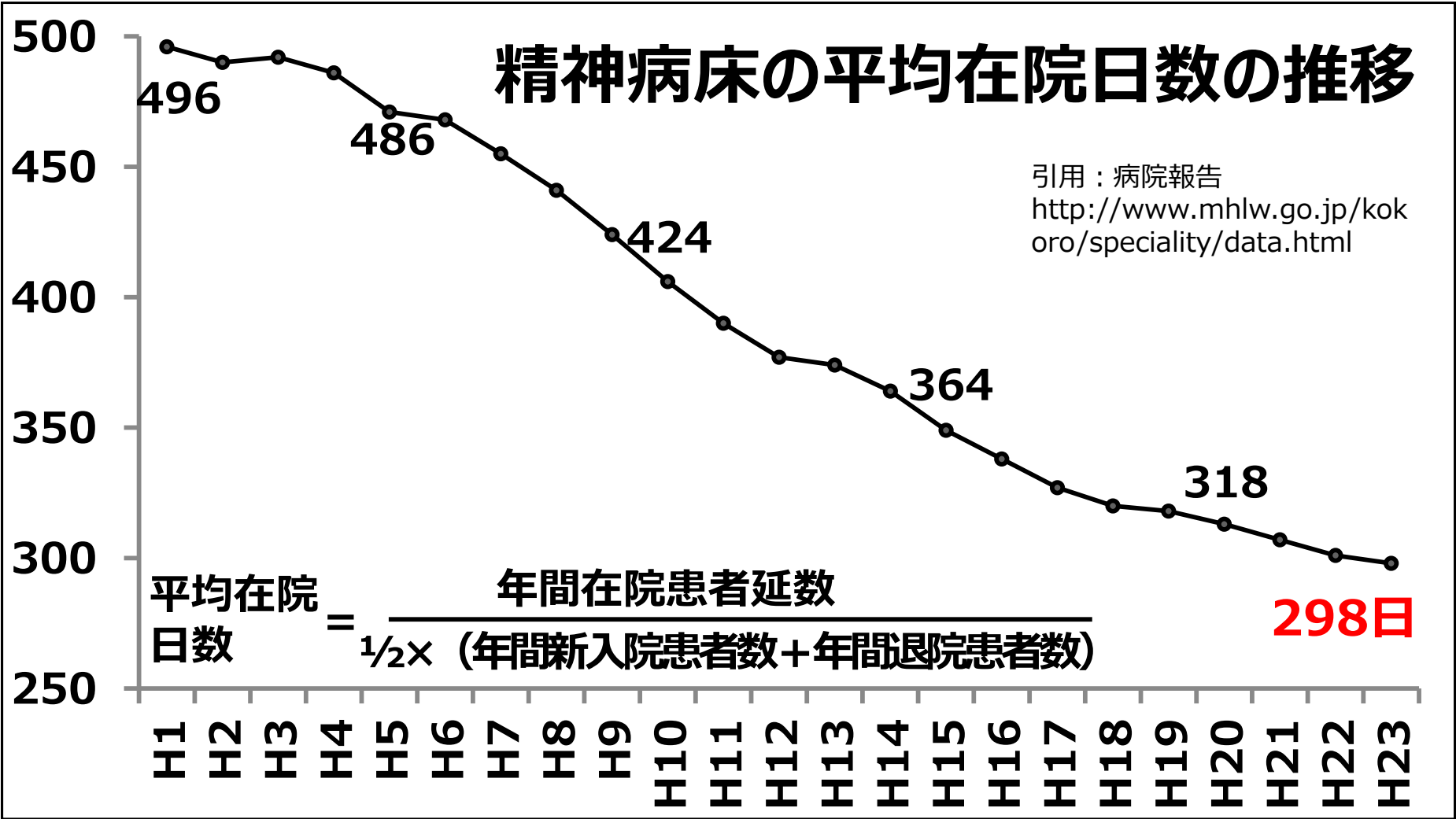
診断名	概要
統合失調症	知覚、思考、感情など様々な精神機能に症状が現れる
気分障がい	コントロール困難な気分や感情の沈下、高陽 [うつ病、双極性感情障がい（旧：躁うつ病） など]
薬物依存 アルコール依存症	依存性物質等の摂取により日常生活に支障。 幻覚妄想の症状から認知機能の障がいなど様々。
不安障がい	[恐怖症性不安障がい（広場恐怖、社会恐怖、対人恐怖）、適応障がい、パニック障がい、心的外傷後ストレス障がい（PTSD）、強迫性障がいなど] 不安が強く、心理面、身体面、行動面に支障を来す症状
摂食障がい	極端な食事制限や過量の食事摂取[拒食症、過食症など]
パーソナリティ 障がい	極端な考えや行動による社会不適応、 対人関係の不安定さ

診断名	概要
自閉症スペクトラム障がい [ASD]	知的に明らかな遅れはないが、社会生活能力及び対人関係に支障を抱える。アスペルガー症候群、自閉症スペクトラム（高機能自閉症）など ＊自閉症スペクトラム障がい（ASD）は、ADHD（注意欠陥/多動性障がい）、学習障がい（LD）などを合併していることあり。（ADHDやLDは、“広汎性発達障がい”というカテゴリーではASD等と一緒にになる）
解離性障がい	心的外傷への自己防衛として自己同一性を失う症状
睡眠障がい	不眠や過度の眠気、睡眠リズムの不安定[不眠症、ナルコレプシーなど]
心身症	精神の持続的な緊張やストレスによって生じる身体疾患 [過敏性腸症候群、過敏性膀胱、神経性胃炎、神経性嘔吐、偏頭痛などを伴う]
その他	認知症、器質性精神病、てんかん、非定型精神病、知的障がいなど

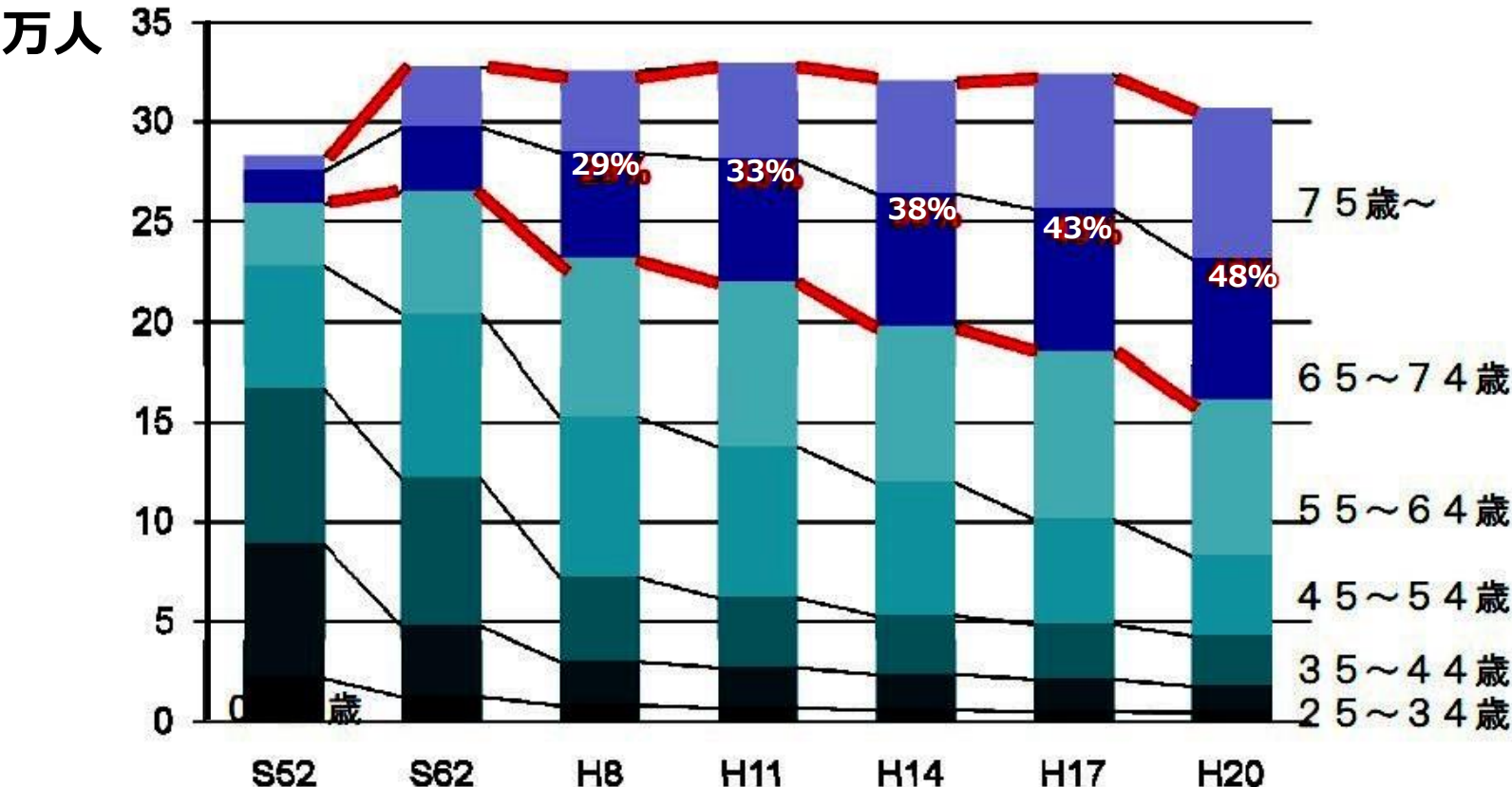
精神疾患を有する総患者数の推移







精神病床入院患者の年齢分布

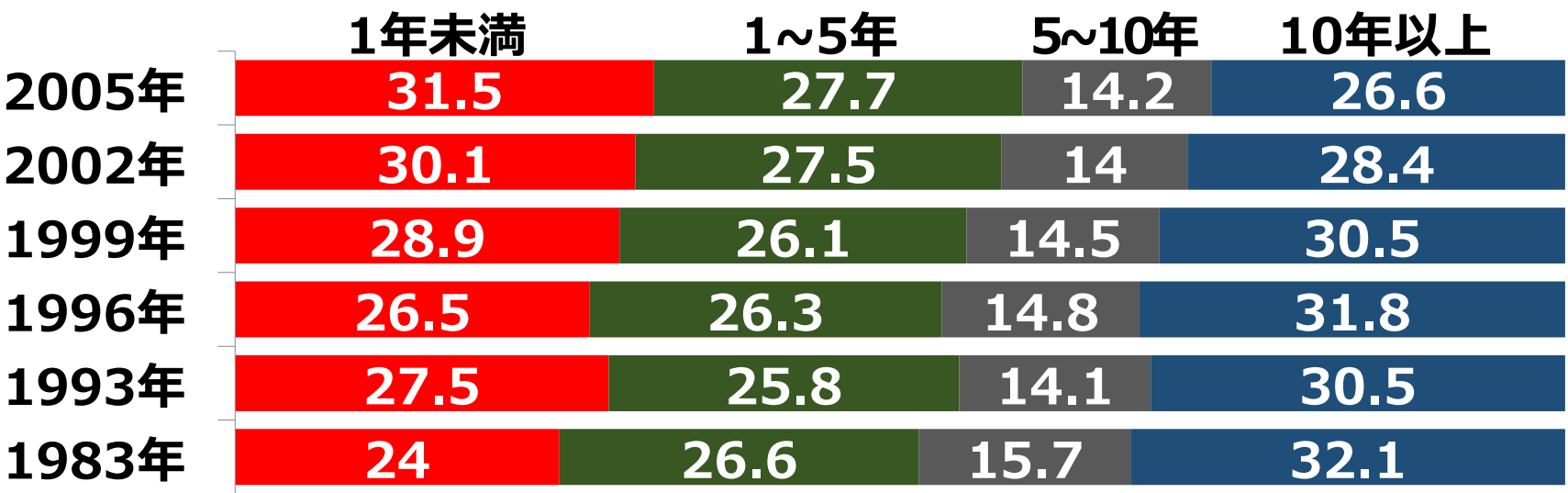


引用 患者調査 http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaishahukushi/kaigi_shiryou/dl/20110630-02-03.pdf

精神科の社会的入院：約 7 万人

【2005年時】 5年以上：132、000人（全入院患者の約41%）
うち20年以上入院：45、000人超（14%）
＊ 国は社会的入院患者を7万と推定。実際はもっと多いと言われている

■ 在院期間別患者数の推移（厚労省）



引用 http://www.kansatuhou.net/10_shiryoshu/07_01_shiryousiseisin.html#8

精神障がい者支援の近年の動向

H23年 新規入院患者のうち

①	3カ月未満で退院	23.0万人
②	3カ月以上1年未満で退院	11.6万人



精神科治療の向上（軽症患者の増加）
地域の支援体制の整備拡充（受け皿の増加）

- ※一定の治療期間で退院できるものが増えている。
 - ※一定の割合で長期入院にならざるを得ない層がいる。
- ⇔以前からの長期入院患者の課題も未解決。

地域支援の質の向上で、地域生活を送れる
精神障がい者の増加を目指すことが可能になる

①②で
新規入院患者の87%に
相当

引用：厚生労働省『患者調査』

心の病を抱える人



**優しい
真面目
頑張り屋
遠慮がち**

な人が多い。

**ストレスを溜め込む、無理し過ぎた結果、“心の病”になる。
環境が本人にとってストレスフルな場合も心の病につながる可能性もある。**